



ディプロマ ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の中から化学に関する諸点を抽出し、それを他分野からの視点を含めて多面的に分析することで合理的な解決策を見出し、社会の持続可能な発展に貢献することができる。</li> <li>・ 多様な化学現象を観察および処理できる実験技術を身につけ、化学物質やプロセス技術がもつ危険性や環境への負荷を判断し、的確に行動できるとともに、多くの人々に状況を正確に伝えることができる。</li> <li>・ 課題解決においては、特に環境・生命工学との統合的な視点を保ち、協働しながらグローバルに活動できる能力と意欲、倫理観を身につけ活動できる。</li> </ul>				107 単位							
	応当単位数合計	13 単位	24 単位	20 単位		28 単位	22 単位	107 単位				
M2 M1	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期					
分 野	数理科目	学際科目	専門横断	分 野	物質・材料分野	環境リノベーション分野	生命・医工学・食品分野					
カリキュラム ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「専門」としての「物質・材料分野」では化学技術の基礎となる知識や方法を確実に身につけ、化学物質が関わる諸課題の解決に携わるための技術を高度化する。特に、「物質・材料研究特論aおよびb」において、化学に関わる研究活動を実施するための基本的な考え方と成果を発信するための技術を獲得する。</li> <li>・ 「専門横断」においては、化学・環境・生命工学専攻の幅広い技術を理解し、それらをもとに研究活動を進めるための科目群を置き、幅広い視点から課題解決を行う技術やツールを身につける。特に、「基礎テクノロジーセミナーaおよびb」ならびに「研究倫理特論」においては研究活動を始めるに当たっての、さまざまな情報収集および評価法などを修得し、また技術者倫理をはじめとする専攻分野に関する倫理観を醸成する。</li> <li>・ 「共通横断」には数理科目および学際科目を置き、専門横断・研究活動に必要な工学分野の知識と英語力を増進する。</li> </ul>											
アドミッション ポリシー	物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるような教育を行う。その中では、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていく。 (求める人物像) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人</li> <li>・ 物質に関わる知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人</li> <li>・ 化学・環境・生命工学専攻が包含する幅広い技術を融合的に活用し、人類が今後直面する多岐にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人</li> <li>・ 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>											
ディプロマ ポリシー	4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学部> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】(主体的に生涯学習を継続する意欲と関心) 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】(技術者に求められる文・理・情報系の素養) 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】(専門分野の知識・技術【詳細は学科DP】) 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】(相互に理解し議論するコミュニケーション能力) 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】(他者との協働による課題解決力) 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を醸成し、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる <応用化学科> 応用化学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 人文社会科学や自然科学との幅広い教養を身につけ、広い視点で化学技術が発展できる。【幅広い教養と応用力】 (B) 化学の基礎から応用まで体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。【化学の専門知識の修得力】 (C) 化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。【他者との協働性と課題解決能力】 (D) 持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動できる。【化学技術者としての使命感と実践力】 (E) 化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。【継続的な学修力とケミカルハザード・リスクへの対応力】 (F) 化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。【化学の専門知識を基盤としたコミュニケーション能力】 (G) 情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。【情報技術を活用した発信力】 ●注:【】はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を示す											
分 野 別 到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文科学的知識の基礎的知識を身につけ、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション能力を発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を講じている。	工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学に関連する基礎的知識を身につけ、応用・理解、自然環境との共生を基盤とした思考・判断ができることと、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を増進する。	数学や他の自然科学関連のより総合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学技術の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。環境生命化学分野の専門科目を継続して学習して環境、生命、健康、食品関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。	卒業に必要な単位数 124単位				
応当単位数合計	-	-	-	32 単位	27 単位	18 単位	20 単位	97 単位				
進 年	1	2	3	4	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期				
分 野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理科学と教育	その他選修	分 野	基礎科目	総合化学系科目	創成材料化学系科目	環境生命化学系科目			
カリキュラム ポリシー	<工学部カリキュラム・ポリシー> 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し取り入れることとし、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底的に保証する。 4) 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ●注:「3)4)5)6)」を明確化したものが、各学科のDPとなる				・ 卒業研究によって、学修した基礎学力を未知の課題解決に導く応用展開力を養うとともに、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を養う。 ・ 基礎および総合化学分野の選択科目によって、化学物質の取り扱いに関する知識や技術を身につけ、化学物質の有する機能・有用性を理解し、内包している危険性を認識できる能力を養う。 ・ 必修履修科目によって、化学技術に関する基礎知識と思考法および方法を理解する能力を養う。 ・ 実験や演習(PBL)科目によって、化学技術者としての基礎学力と実践力を体系的に身につけ、様々な課題に対して積極的に挑戦し、他者と協働して解決できる能力を養う。				・ 創成材料化学および環境生命化学分野の選択科目によって、持続的な社会を実現するために必要な地球環境に配慮した化学技術に関する教養ならびに化学技術者としての使命感や倫理観を養う。 ・ 創成材料化学分野の選択科目によって、新エネルギーを創出し生活を豊かにする新しい材料を設計・開発する基礎技術に関する教養ならびに思考能力を養う。		・ 環境生命化学分野の選択科目によって、環境、生命、健康および食品が化学技術と深く関わっていることを理解し、新しい技術・製品を創出するために必要な応用展開力を養う。	
アドミッション ポリシー	応用化学科は、「化学」をはじめとする自然科学の基礎知識や実験技術を修得することにより、化学系技術あるいは研究能力を身につけることを目標としています。特に、豊かな社会を築くために、「化学」にかかわる課題を主体的に発見、解決することができ、グローバルに活躍できる能力と倫理観を持つ人材を養成します。 (求める人物像) (1)「化学」をはじめとする自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人 (2)「実験や観察が好きで、新しい「もの」や「材料」さらには「物質」をつくり出すことに熱中できる人 (3)自ら学ぶ意欲を持ち、チャレンジ精神旺盛でバイタリティーに溢れる人 (4)化学の知識をはじめとし、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につけ、将来、工学の分野で国際的に活躍できる技術者や研究者をめざそうとする人											

大学院 博士前期課程 前期・後期 M2 M1	ディプロマ ポリシー ・課題の中から化学に関する諸点を抽出し、それを他分野からの視点を含めて多面的に分析することで合理的な解決策を見出し、社会の持続可能な発展に貢献することができる。 ・多様な化学現象を観察および処理できる実験技術を身につけ、化学物質やプロセス技術がもたらす危険性や環境への負荷を判断し、的確に行動できるとともに、多くの人々に状況を正確に伝えることができる。 ・課題解決においては、特に環境・生命工学との統合的な視点を保ち、協働しながらグローバルに活動できる能力と意欲、倫理観を身につけて活動できる。	応当単位数合計 13単位	24単位	応当単位数合計 24単位	28単位	22単位	111単位	
	数理科目 学際科目 共通横断	専攻科目 専門横断	数理科目 学際科目 共通横断	専攻科目 専門横断	数理科目 学際科目 共通横断	専攻科目 専門横断	数理科目 学際科目 共通横断	専攻科目 専門横断
ディプロマ ポリシー ・「専門」としての「物質・材料分野」では化学技術の基礎となる知識や方法を確実に身につけ、化学物質が関わる諸課題の解決に携わるための基本的な考え方と成果を発信するための技術を獲得する。 ・「専門横断」においては、化学・環境・生命工学専攻の幅広い技術を理解し、それらをもとに研究活動を進めるための科目群を置き、幅広い視点から課題解決を行う技術やツールを身につける。特に、「基礎テクノロジーマテリアル」および「研究倫理特論」においては研究活動を始めるに当たっての、さまざまな情報収集および評価法などを修得し、また技術者倫理をはじめとする専攻分野に関する倫理観を醸成する。 ・「共通横断」には数理科目および学際科目を置き、専門横断・研究活動に必要な工学分野の知識と英語力を増進する。	物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるような教育を行う。その中では、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていく。 (求める人物像) ・専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人 ・物質に関する知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人 ・化学・環境・生命工学専攻が包含する幅広い技術を統合的に活用し、人類が今後直面する多岐にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人	4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学部> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】(主体的に生涯学習を継続する意欲と関心) 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれを活用できる。【知識・理解・技能】(技術者に求められる文・理・情報系の素養) 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】(専門分野の知識・技術【詳細は学科DP】) 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】(相互に理解し議論するコミュニケーション能力) 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】(他者と協働による課題解決力) 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を醸成し、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる <応用化学科> 応用化学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 人文社会科学や自然科学の幅広い教養を身につけ、広い視点で化学技術が発展できる。【幅広い教養と応用力】 (B) 化学の基礎から応用まで体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。【化学の専門知識の修得力】 (C) 化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。【他者との協働性と課題解決能力】 (D) 持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもつ行動ができる。【化学技術者としての使命感と実践力】 (E) 化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。【継続的な学修力とケミカルハザード・リスクへの対応力】 (F) 化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。【化学の専門知識を基盤としたコミュニケーション能力】 (G) 情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。【情報技術を活用した発信力】 ●注:「F)」はディプロマ・サプリメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示						物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるような教育を行う。その中では、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていく。 (求める人物像) ・専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人 ・物質に関する知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人 ・化学・環境・生命工学専攻が包含する幅広い技術を統合的に活用し、人類が今後直面する多岐にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人
分業別 到達目標 グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文科学・教養・思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション能力が健康で豊かな心身の健康を維持増進する方策を講じている。 工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基礎知識を理解・応用・理解し、自然環境との共生を企図し、自然環境との共生を企図し、他者と協働して取り組むことができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる	工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基礎知識を理解・応用・理解し、自然環境との共生を企図し、自然環境との共生を企図し、他者と協働して取り組むことができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる	数学や他の自然科学関連の基礎知識を理解・応用・理解し、自然環境との共生を企図し、自然環境との共生を企図し、他者と協働して取り組むことができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文科学・教養・思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション能力が健康で豊かな心身の健康を維持増進する方策を講じている。 工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基礎知識を理解・応用・理解し、自然環境との共生を企図し、自然環境との共生を企図し、他者と協働して取り組むことができる。【理解・応用・倫理】(社会に対し能動的に貢献する行動力) ●注:「3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる	化学の基礎から応用まで体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。	化学技術の基礎を継続して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学技術の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。	化学の基礎から応用まで体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。環境生命化学分野の専門科目を継続して学習して環境、生命、健康、食品関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。	化学の基礎から応用まで体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。環境生命化学分野の専門科目を継続して学習して環境、生命、健康、食品関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。	
応当単位数合計 25単位	25単位	18単位	20単位	95単位	5単位	52単位	24単位	
2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	2 5 4 前期・後期	
1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	1 前期・後期	
分野 キャリア形成の基礎 工学の基礎 数理科目と教育 その他選修	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	分野 基礎科目 総合化学系科目 創成材料化学系科目 環境生命化学系科目	
ディプロマ ポリシー <工学部カリキュラム・ポリシー> 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、科目間の連携を高める体系的カリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的コミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底的に保証する。 4) 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ●注:「3)4)5)6)」を明確化したものが、各学科のDPとなる	ディプロマ ポリシー H) 卒業研究によって、学修した基礎学力を未知の課題解決に導く応用展開力を養うとともに、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を養う。 C) 総合および総合化学分野の選択科目によって、化学物質の取り扱いに関する知識や技術を身につけ、化学物質の有する機能・有用性を理解し、内包している危険性を認識できる能力を養う。 E) 創成材料化学および環境生命化学分野の選択科目によって、持続的な社会を実現するために必要な地球環境に配慮した化学技術に関する教養ならびに化学技術者としての使命感や倫理観を養う。 A) 必修講義科目によって、化学技術に関する基礎知識と思考法および方法を理解する能力を養う。 B) 実験や演習(PBL)科目によって、化学技術者としての基礎知識と実践力を体系的に身につけ、様々な課題に対して積極的に挑戦し、他者と協働して解決できる能力を養う。 D) 総合化学分野の選択科目によって、化学分野で必要となる情報収集する能力や一般社会に発信する能力を養う。 F) 創成材料化学分野の選択科目によって、新エネルギーを創出し生活を豊かにする新しい材料を設計・開発する基礎技術に関する教養ならびに思考能力を養う。 G) 環境生命化学分野の選択科目によって、環境、生命、健康および食品が化学技術と深く関わっていることを理解し、新しい技術・製品を創出するために必要な応用展開力を養う。	ディプロマ ポリシー <求める人物像> (1) 化学をはじめとする自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人 (2) 「実験や観察が好きで、新しい「もの」や「材料」さらには「物質」をつくり出すことに熱中できる人 (3) 自ら学ぶ意欲を持ち、チャレンジ精神旺盛でバイタリティーに溢れる人 (4) 化学の知識をはじめとし、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につけ、将来、工学の分野で国際的に活躍できる技術者や研究者をめざそうとする人	ディプロマ ポリシー <求める人物像> (1) 化学をはじめとする自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人 (2) 「実験や観察が好きで、新しい「もの」や「材料」さらには「物質」をつくり出すことに熱中できる人 (3) 自ら学ぶ意欲を持ち、チャレンジ精神旺盛でバイタリティーに溢れる人 (4) 化学の知識をはじめとし、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につけ、将来、工学の分野で国際的に活躍できる技術者や研究者をめざそうとする人					